

CNCF 2025

アニュアルレポート

クラウドネイティブAIへの準拠で
新たな高みを目指す



CONTENTS

- INTRODUCTION 3**
- 2025 MOMENTUM 4**
- LEADERSHIP 5**
- MEMBERSHIP 5**
- END USER COMMUNITY 6**
- END USER AWARD WINNERS 7**
- CASE STUDY CONTEST WINNERS 8**
- EVENTS 10**
- EDUCATION 16**
- PROJECT UPDATES AND SATISFACTION 18**
- CNCF PROJECT VELOCITY 20**
- SECURITY 22**
- PHIPPY AND FRIENDS 23**
- COMMUNITY ENGAGEMENT 24**
- MENTORING 28**
- FUNDING 31**

INTRODUCTION

2025年はCNCFにとって設立10周年の節目の年であり、オープンソースのクラウド ネイティブ イノベーションの進化において最高の年となりました。CNCFは現在230以上のプロジェクトをホスティングし、世界中に30万人以上のコントリビューターを擁しており、世界最大級のオープンソース組織の一つとなっています。

2025年、CNCFは組織がクラウド ネイティブ ツールを大規模に導入することを支援するというミッションを継続しました。一貫性のある信頼性の高いAIインフラを支援するためにCertified Kubernetes AI Platform Conformance Programを立ち上げ、CNPAおよびCNPE認定によるプラットフォーム エンジニアリングの新しいトレーニング パスを導入しました。また、世界各地のKubeCon + CloudNativeConイベントに過去最高の参加者を迎えました。プラットフォーム エンジニアリング、AI、オブザーバビリティといったテーマが、クラウド ネイティブ が新たな課題に対応しながら成長し続けていることを示しました。

6月にExecutive Directorの役職に就いて以来、コミュニティの強さと献身に深く感銘を受けています。財団に参加した当初の目標は、OpenInfraとクラウド ネイティブ アプリケーション レイヤーの間にある戦略的なギャップを埋めることでした。それ以来、これらのエコシステム全体で開発者の摩擦を減らすために達成した進歩は、コミュニティの情熱と協力の精神を雄弁に物語っています。メンテナの力を引き出し、CNCFを特徴づける厳格なガバナンスを守ることで、世界で最も革新的なソフトウェアが、私たちのコミュニティだけが提供できる信頼の基盤の上に構築され続けることを保証しています。

エンド ユーザー コミュニティもCNCFの最大の強みの一つであり続けています。今年のTop End User AwardはAnt GroupとMichelinが受賞し、両社ともクラウド ネイティブ技術が本番環境における実際のインフラ ニーズを解決していることを実証しました。

今年の報告書は、具体的な成果とコミュニティの協力によって実りある1年となったことを伝えるものです。プロジェクト、コミュニティ、メンバー企業全体で行われている活動が、オープンソース インフラの次の10年を形作っています。



Jonathan Bryce, Executive Director, CNCF



230+ Projects



~800
CNCF Members



300k+
Contributors

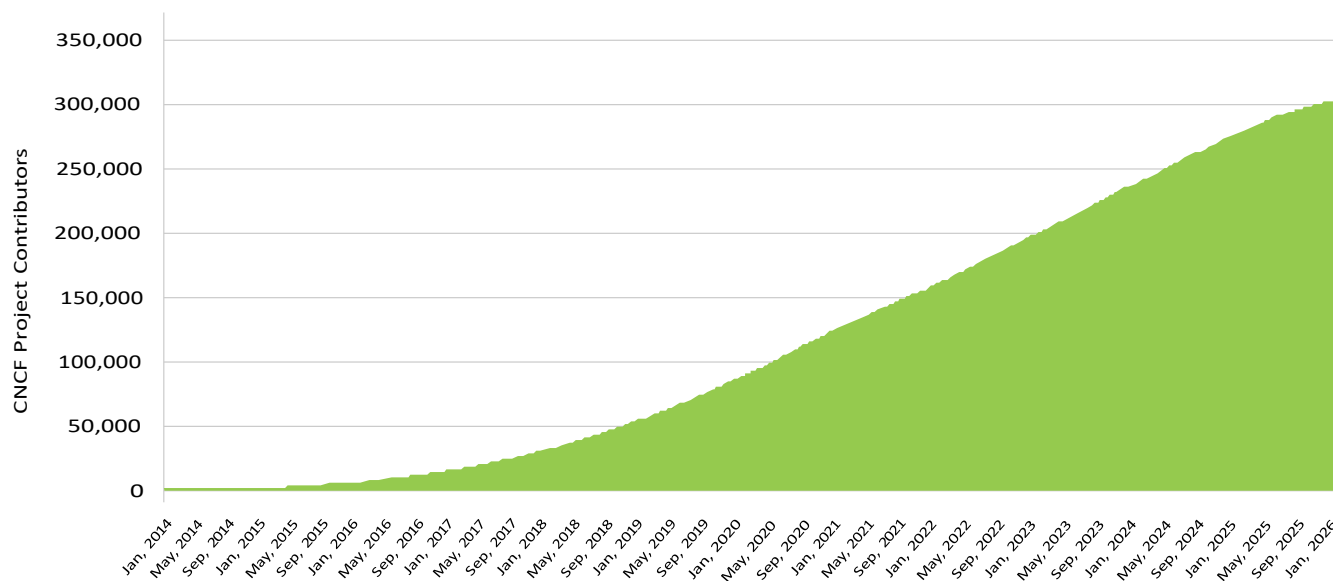


70,000+
community.cncf.io Group
Members

「コミュニティを心から誇りに思います。約9千人の仲間がアトランタに集まり、クラウド ネイティブの10周年を祝いました。技術は確かにワクワクするものですが...クラウド ネイティブ コミュニティでの10年間で学んだ最大の教訓は、より良い人間になるにはどうすればよいかということでした」
- LIN SUN, LINKEDIN

2025 MOMENTUM

PROJECT CONTRIBUTORS



「振り返ってみると、Cloud Native Computing Foundation (CNCF)が設立されてからもう10年が経ったとは信じられません。クラウド ネイティブ コミュニティの成長を目にするのは本当に素晴らしいことです。最も温かく、最も革新的なコミュニティの一つです！... #cTENCf おめでとうございます！次の10年のイノベーションが楽しみです」 - KATIE GAMANJI, LINKEDIN

Cloud Native Computing Foundation(CNCF)は、クラウド ネイティブ コンピューティングの普及を目指すオープンソース ソフトウェア財団です。2015年の設立以来、Kubernetes、Prometheus、Envoy、ContainerDやその他をはじめとする世界で **最も成功**したオープンソース プロジェクトの**数々**をホスティング・育成し、クラウド ネイティブ技術の先駆けとなってきました。

現在CNCFは、先見性のあるプロジェクトと人材の原動力であり、190カ国から30万人以上のコントリビューターが参加する230以上のプロジェクトをホスティングしています。この成長に減速の兆しは見られません。

LEADERSHIP

6月、Jonathan BryceがCloud & Infrastructure担当のExecutive Directorに、Chris AniszczykがCloud & Infrastructure担当のCTOに任命されました。両名は、CNCFを含むLinux Foundation最大のクラウドおよびインフラのオープンソース イニシアティブを統括します。BryceはCNCFのExecutive Directorも兼任します。



Jonathan Bryce
Executive Director, CNCF

BryceはExecutive Directorとして、230以上のプロジェクトを導き、財団の約800のメンバー間の協力を促進します。また、OpenInfra FoundationのExecutive Directorも引き続き務めており、AI、エッジ コンピューティング、クラウド ネイティブ ワークロード向けのオープンソース インフラ導入の推進において、両財団が共通の影響を持つことを示しています。

Cloud & Infrastructure担当のCTOとして、Aniszczykはその役割を拡大し、OpenInfraやOpenSearchをはじめとするLinux Foundationの主要プロジェクトにも責任を担います。開発者イニシアティブ、CNCFの成長から得た知見の共有、そしてクラウドおよびインフラ技術のグローバルな影響力の拡大に注力します。



Chris Aniszczyk
CTO, CNCF

MEMBERSHIP

CNCFのエコシステムは、ベンダーおよびエンド ユーザーの両方のメンバーシップで成長を続けており、最も成功したオープンソース財団の一つとなっています。2025年には135の新メンバーを迎えました。

約800のメンバー組織を擁するCNCFは、世界最大規模のパブリック/プライベートクラウド企業、最も革新的なソフトウェア企業、そしてエンド ユーザー組織を結びつけています。これらの主要組織からの投資は、今後何年にもわたるクラウド ネイティブ コンピューティングの発展と持続性への強い献身を意味しています。



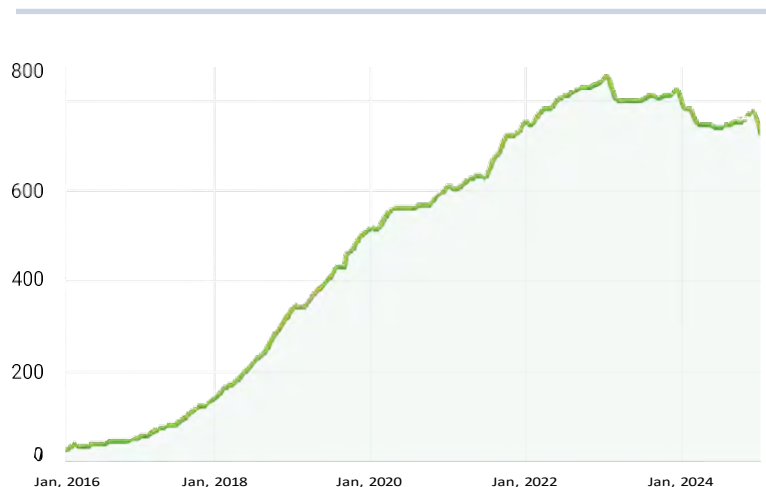
NEW PLATINUM MEMBER



NEW GOLD MEMBERS



CNCF MEMBERSHIP GROWTH



COMMUNITY

Patent Troll Deterrence for Ecosystem Defense



クラウド ネイティブの幅広い成功と普及に伴い、パテント トロール（事業を行わない特許保有団体、NPE)がこの技術領域を標的にするケースが増加しています。クラウド ネイティブのオープンソース プロジェクトの採用者を対象としたNPE訴訟は、2025年に過去最高を記録しました。

CNCFエコシステムの主要な防御手段の一つが、**Open Source Zone (OS Zone)**です。これは2019年に**Unified Patents**との提携で開始され、2024年に拡大されました。OS Zoneは、行政的な異議申立、クラウドソースによる先行技術コンテスト、情報共有を活用した包括的な戦略でNPEの脅威を抑止しています。2025年にNPEの攻勢が強まったことを受け、OS Zoneは抑止活動を大幅に強化しました。クラウドソースによる先行技術コンテストを**3倍**に、NPE保有特許に対する行政的な異議申立を2024年比で**ほぼ2倍**に増やしました。これらの抑止活動の大部分は、クラウド ネイティブ プロジェクトの保護を目的としたものでした。

2024年、CNCFはパテント トロールに対抗するための先行技術の発見にクラウド ネイティブ技術者の協力を得ることを目的として、**Cloud Native Heroes Challenge**を立ち上げました。受賞した先行技術は**PATROLLプラットフォーム**を通じて公開されます。これらのコンテストを通じて、コミュニティ メンバーはグッズ、賞品、表彰を獲得できます。2025年、Open Source Zoneは32件の先行技術コンテストを開催し、そのうち31件がクラウド ネイティブ関連、6件がCNCFのスポンサーによるものでした。CNCFがスポンサーしたコンテストを通じて、クラウド ネイティブ コミュニティのメンバーに15,000ドルの賞金、KubeCon + CloudNativeConチケット、グッズなどのインセンティブが贈られました。

END USER COMMUNITY

「Fluent BitのCPU使用率をフリート全体で50%削減し、研究および応用インフラ全体に切望されていたキャパシティを提供しました。これがCNCFエコシステムの力です。これらのツールを深く理解すれば、すべての人に利益をもたらす形で最適化できるのです」 - FABIAN PONCE, MEMBER OF TECHNICAL STAFF, OPENAI





CNCFのエンドユーザーコミュニティは、クラウドネイティブ技術の限界を常に押し広げている革新的で先進的な組織の集まりです。これらの組織はクラウドネイティブアーキテクチャを活用して事業を運営しており、クラウドネイティブサービス業界に限定されません。ベンダー、コンサルタント、トレーニングパートナー、通信企業とは異なり、その主な目的はクラウドネイティブサービスを外部に販売することではなく、クラウドネイティブアーキテクチャの力を活かして現実の課題を解決することです。

クラウドネイティブアーキテクチャには課題と機会の両方があり、エンドユーザー企業内でこれらの取り組みを主導する技術に精通したクラウドネイティブの推進者たちがこれを受け入れています。彼らは、包括的で反復的なプロセスをサポートするソリューションを開発することで、セルフサービスの文化を育てています。このセルフサービスのアプローチは、アジャイルでレジリエントな運用に不可欠です。チームに力を与え、イノベーションを促進し、不可欠な反復的フィードバックループを加速させるからです。

END USER AWARD WINNERS

今年のCNCF Top End User AwardはAnt GroupとMichelinに贈られ、クラウドネイティブエコシステムへの多大で影響力のある貢献が称えられました。この賞は、自社および広範なコミュニティにおいて、クラウドネイティブ技術とベストプラクティスの採用、貢献、推進に卓越した取り組みを示したエンドユーザー組織を表彰するものです。

SPRING 2025 WINNER



Ant Group—Ant Groupは、すべてのアップストリームコンポーネントを使用してKubernetesを15,000ノードにスケールさせ、クラウドネイティブインフラの限界を押し広げる専門性と能力を実証しました。



AUTUMN 2025 WINNER



Michelin—Michelinはオープンソースツールを使用してKubernetes環境全体を再構築しました。この移行により、プラットフォームコストを44%削減、アップグレードのリードタイムを85%短縮し、Kubernetesの規模を2倍に拡大しました。



CASE STUDY CONTEST WINNERS

KUBECON + CLOUDNATIVECON EUROPE



Michelin—VMwareの戦略変更に直面し、Michelinはクラウドおよびオンプレミス環境の62クラスターで441のビジネスアプリケーションをサポートするようKubernetesプラットフォームを再設計しました。Cluster API、Crossplane、ArgoCDを使用してインフラ管理を自動化し、プラットフォームコストを44%削減、アップグレードのリードタイムを85%短縮しました。この変革により、スケーラビリティと効率性が向上し、Michelinがトップクラスのエンジニアリング人材にとって魅力的な職場であり続けることにもつながりました。

[Michelinのキーノート >>](#)

KUBECON + CLOUDNATIVECON CHINA



iFlytek—大規模なAIモデルのトレーニングは困難ですが、それをKubernetes上で効率的に行うのはさらに困難です。iFlytekはVolcanoを活用し、大規模モデルトレーニングにおける主要な課題に取り組みました。具体的には、低いGPU使用率、脆弱なワークフロー、チーム間のリソース競合といった問題です。その結果、GPU使用率を40%以上向上させ、障害復旧時間を70%短縮し、ハイパーパラメーターチューニングを50%高速化しました。[iFlytekのキーノート >>](#)

KUBECON + CLOUDNATIVECON JAPAN



東京ガス—東京ガスは、市場の規制緩和を受けてイノベーションを加速するため、最大のデジタルメンバーシッププラットフォームを再構想しました。リフトアンドシフト型のクラウドアプローチから、真のクラウドネイティブアーキテクチャへの移行です。東京ガスはKubernetes、Argo CD、Istioを採用してマイクロサービスへ移行し、デプロイの4倍高速化、コストの30%削減、運用負荷の30%軽減を達成しました。少人数のチームでわずか数カ月で最初のマイクロサービスをローンチし、リリース時間を大幅に短縮するとともに、将来の成長に向けたスケーラブルな基盤を構築しました。[東京ガスのキーノート >>](#)

KUBECON + CLOUDNATIVECON INDIA



Zepto—Zeptoは、マイクロサービスの急速な拡大、ツールのサイロ化、開発者の摩擦の増大という課題に直面しました。これらの課題を克服するため、Backstage、Kubernetes、Argoを採用して統合開発者ポータルを構築しました。サービス依存関係の可視化、オンボーディングの自動化、デプロイ/ロールバックの高速化により開発者体験を変革し、同時に信頼性とチームの生産性も向上させました。[Zeptoのキーノート >>](#)

KUBECON + CLOUDNATIVECON NORTH AMERICA



OpenAI—OpenAIは前例のない大量のログを処理する必要がありましたが、CPUスロットリングの問題によりDaemonSetのスケーリングが困難な状況でした。Fluent Bitがシステムコールをどのように使用しているかを調査した結果、チームはinotifyに関する問題を発見し、代替手法を提案しました。ファイルステータスのより頻繁な確認と、その頻度の削減です。この取り組みによりCPU使用率が削減され、信頼性が向上しました。この成果は現在、Fluent Bitおよび広範なOSSコミュニティ向けのアップストリームパッチとして準備が進められています。

[OpenAIのキーノート >>](#)

EXECUTIVE SUMMIT

KubeCon + CloudNativeCon North Americaでは、エンド ユーザー企業の40名以上のクラウド ネイティブ エグゼクティブが集まり、AIの変革について午後を通じて議論を行いました。

この議論は、AIの実験段階から組織的な実行段階への転換を示すものでした。リーダーたちは、AIの統合を成功させるには組織的な機敏性が必要であると共有しました。ベンダー ロックインを回避するため、組織はオープン スタンドードと抽象化レイヤーを優先し、変動の激しいAIベンダー環境における運用のレジリエンスを確保しています。

主要な議論の焦点は「ガードレール付きアジリティ」でした。これは、遅いコンプライアンス サイクルとAIイノベーションの急速なペースの両立を意味します。プロンプト数やソース コードの行数といった「見せかけの指標」を追うのではなく、コミュニティは開発者の生産性やタイム トゥ マーケットといった成果ベースの測定へと移行しています。

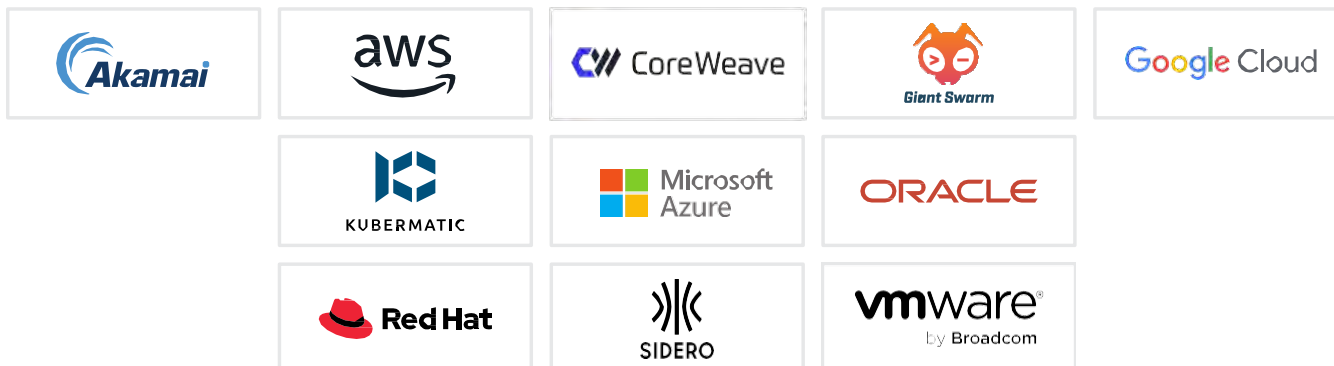
議論の詳細については[イベント レポート](#)をご覧ください。また、[End User Community](#)に参加して、同業者から学び、この影響力のあるグループに貢献しましょう。

CERTIFIED KUBERNETES AI PLATFORM CONFORMANCE PROGRAM

AIワークロードがKubernetesに依存する割合が高まる中（82%の組織がカスタムAIを構築、58%がKubernetesを使用、90%がオープンソースを重要視）、断片化のリスクが高まっています。これに対処するため、CNCFは2025年に[Certified Kubernetes AI Conformance Program](#)を立ち上げました。このプログラムは、Kubernetes上で一般的なAI/MLフレームワークを実行するための最低基準と構成を定め、企業にデプロイの信頼性を、ベンダーに互換性のベースラインを提供します。

100以上のプラットフォームでKubernetesを標準化した既存の[Certified Kubernetes AI Conformance Program](#)の成功を踏まえ、この新しい取り組みはCNCFのモデルをAIインフラに適用するものです。その目標は、コミュニティで合意された明確な要件の設定、コンプライアンスのテスト、Kubernetes上のAIタスク向けのオープンで標準的なAPIの推進を通じて、混乱を減らし、一貫性を確保し、AIの採用を加速することです。

INITIAL ADOPTERS AND MAJOR CONTRIBUTORS



EVENTS

CNCF IS 10!

2025年はCNCF設立10周年を記念する年であり、クラウド ネイティブ技術のイノベーションを加速させてきた10年間の節目となりました。2015年の設立以来、CNCFは少数のプロジェクトと22の初期メンバーから、世界最大のオープンソース財団へと成長しました。現在、財団は230以上のプロジェクト、約800のメンバー企業、そして190カ国にまたがる30万人以上のコントリビューターからなる広大なコミュニティを擁しています。



#cTENcf REGIONAL EVENTS

2025年を通じて、CNCFは世界中のコミュニティ主催イベントの協力のもと、10周年を祝いました。これらは#cTENcf地域イベントとして統一ブランド化され、クラウド ネイティブのイノベーションと協力の10年間を祝う分散型のワールドワイドな祝賀イベントとして開催されました。

この取り組みには大きな反響があり、66の独立したローカル コミュニティ グループがイベントの企画・実施に成功しました。これらのグループは合計で世界中で61件の祝賀イベントを開催し、CNCFのミッションが広く多様に受け入れられていることを示しました。イベントは33カ国で開催され、クラウド ネイティブ エコシステムの真に国際的な性質と、さまざまな地域やローカルな技術コミュニティへの財団の浸透を示すものとなりました。これらの祝賀イベントは、ネットワーキング、知識共有、そしてクラウド ネイティブの発展に対する各地域の貢献を紹介する場となりました。



KUBECON + CLOUDNATIVECON EUROPE 2025

4月初旬、CNCFはロンドンに約12,500名の参加者を迎え、KubeCon + CloudNativeCon Europe史上最大のイベントとなりました。会場の雰囲気は活気に満ちており、参加者は過去最多となる665名のスピーカーによる325のセッションを熱心に聴講しました。会場のExcel Londonは、トランペットを演奏するビーフィーターからポスターセッション、デモシアターまで、イベントのすべてを参加者が交流し、協力し、体験するための広々とした快適な空間を提供しました。

KubeCon + CloudNativeCon Europeでは、プラットフォーム エンジニアリング、AI、オブザーバビリティの3つの主要テーマが発表とホールウェイでの会話を支配しました。あらゆる規模の企業が、クラウド ネイティブ技術を使って他社が最も困難な課題をどのように解決しているかを熱心に知りたがっていることは明らかでした。



TOTAL REGISTRATION

12,418

1ST-TIME ATTENDEES

46% 

SCHOLARSHIPS

314 

「しかし、このKubeConをさらに特別なものにしたのは、会話とつながりでした。多くの素晴らしい人々に出会い、開発者共通の悩みについて語り、アイデアを交換し、共通の苦労を笑い合い、解決策を議論する機会がありました。このコミュニティがいかに力強く、支え合っているかを改めて実感しました。この1年間取り組んできた活動を続けていこうという意欲がこれまで以上に高まり、刺激を受けて会場を後にしました」 - NITISH KUMAR, X

CONTENT

2,947

SUBMISSIONS

665

SPEAKERS

325

SESSIONS

詳細は[トランスペアレンシー レポート](#)をご覧ください。

KUBECON + CLOUDNATIVECON NORTH AMERICA 2025

2025年のKubeCon + CloudNativeCon North Americaには約9,300名が参加し、北米だけでなく世界中でクラウド ネイティブおよびオープンソース技術の勢いが高まっていることを示しました。米国、ヨーロッパ、オーストラリア、日本、インドなど各地から参加者が集まり、コミュニティのグローバルな強さと広がりを変えて印象づけました。

開発者、メンテナー、エンド ユーザー、技術者が対面でつながり、アイデアを共有し、マイルストーンを祝い、クラウド ネイティブの将来を議論する機会となりました。技術セッションでの深掘りやコントリビューター サミットから、ホールウェイでの会話やプロジェクト ミートアップまで、会場のエネルギーは紛れもないものでした。基調講演と議論は、クラウド ネイティブの将来を形作る柱であるAI、オブザーバビリティ、プラットフォーム エンジニアリング、セキュリティに焦点を当て、そのすべてがオープンな協力を基盤としていました。



TOTAL REGISTRATION

9,388

1ST-TIME ATTENDEES

50% 

SCHOLARSHIPS

283 

「KubeConの醍醐味は、旧友との再会と新しい仲間との出会いです。この投稿で全員をタグ付けしたいのですが、あまりにも多すぎます！KubeConで皆さん一人ひとりと素晴らしい会話を交わし、新しいことを学ぶことができました。より良いスピーカーになる方法から、ミートアップ開催の課題を乗り越える方法まで、さまざまなことです」 - ATULPRIYA SHARMA, LINKEDIN

CONTENT

2,247

SUBMISSIONS

644

SPEAKERS

409

SESSIONS

詳細は[トランスペアレンシー レポート](#)をご覧ください。

KUBECON + CLOUDNATIVECON CHINA 2025

香港でのKubeCon + CloudNativeCon Chinaは、今回も力強い参加者数となりました。クラウド ネイティブ、AI、オブザーバビリティ、そしてもちろんオープンソースをめぐる勢いが成長し続けていることは明らかでした。この勢いが、多くのセッション、議論、ホールウェイでの会話を活気づけました。

クラウド ネイティブ コンピューティングとAIの融合を促進するための新しい取り組みが数多くありました。これらの取り組みは、私たちの共通の未来を形作る技術的・倫理的な側面の両方を探求するための、より広い場を提供して



います。また、CNCFエコシステムへの中国の多大な貢献を裏付けるものでもあり、現在ホスティング プロジェクトの約20%を中国が占めています。

TOTAL REGISTRATION

1,004

1ST-TIME ATTENDEES

48%



SCHOLARSHIPS

61



CONTENT

571

SUBMISSIONS

114

SPEAKERS

71

SESSIONS

詳細は[トランスペアレンシー レポート](#)をご覧ください。

KUBECON + CLOUDNATIVECON JAPAN 2025

初開催となったKubeCon + CloudNativeCon Japan 2025は、忘れられない体験となりました。登録とスポンサーシップは完売し、この地域におけるクラウド ネイティブおよびオープンソース技術の勢いの高まりを示しました。アジア各地、インドをはじめ、さまざまな地域から参加者が集まりました。

開発者、メンテナー、エンド ユーザー、技術者が一堂に集い、アイデアを共有し、イノベーションを祝い、クラウド ネイティブの将来を議論しました。技術的な深掘りセッションやプロジェクト メンテナー ミートアップから、AI、オブザーバビリティ、セキュリティ、プラットフォーム エンジニアリングの実践に光を当てる基調講演まで、エコシステムの形成に貢献する情熱と協力の姿勢が随所に見られました。



TOTAL REGISTRATION

1,502

1ST-TIME ATTENDEES

66% 

SCHOLARSHIPS

59 

CONTENT

746

SUBMISSIONS

112

SPEAKERS

71

SESSIONS

詳細は[トランスペアレンシー レポート](#)をご覧ください。

KUBECON + CLOUDNATIVECON INDIA 2025

第2回となるKubeCon + CloudNativeCon Indiaでは、再び登録とスポンサーシップが完売し、インドにおけるクラウドネイティブおよびオープンソース技術の目覚ましい成長と勢いを裏付けました。

Deep-Dive技術セッションやメンテナー ミートアップから感動的な基調講演まで、イベントはコミュニティの情熱と献身を鮮やかに示す場となりました。開発者、メンテナー、エンドユーザー、技術者が集まり、知識を共有し、新しいアイデアを探求し、クラウドネイティブの将来を形作りました。



TOTAL REGISTRATION

4,017

1ST-TIME ATTENDEES

74% 

SCHOLARSHIPS

224 

CONTENT

950

SUBMISSIONS

142

SPEAKERS

95

SESSIONS

詳細は[トランスペアレンシー レポート](#)をご覧ください。

EDUCATION

2025年、CNCFはクラウド ネイティブ エコシステムの拡大への取り組みを強化しました。これは、定評ある認定プログラムの拡充、就職機会の拡大、そしてより多くの個人がクラウド ネイティブ技術の実践的スキルを向上させられるようにすることで実現されました。

プラットフォーム エンジニアリングの継続的な成長を支援するため、CNCFは[Cloud Native Platform Engineering Associate \(CNPA\)](#)と[Certified Cloud Native Platform Engineer \(CNPE\)](#)の2つの新しい認定を含む包括的なラーニングパスを立ち上げました。CNPAは選択式の初級試験であり、続いて実技試験であるCNPE認定に進みます。50社以上から数百名の専門家の協力により開発されたこれらの試験は、CNCFとコミュニティの間の強固なパートナーシップを示すものです。

今年は[Kyverno Certified Associate \(KCA\)](#)も開始されました。これはKyvernoに関する選択式試験です。KCA認定は、Kubernetes向けのオープンソース ポリシー エンジンであるKyvernoの使用に関する習熟度を確認するものです。この習熟度には、ポリシーを活用したKubernetesリソースの管理、検証、変更、生成が含まれます。KCAはKubernetes Administrator、DevOps/DevSecOps Engineer、Security Analystなどの IT プロフェッショナル向けに設計されており、クラウド ネイティブの管理、ポリシーの自動化、セキュリティに関する専門知識を証明します。

2025年、CNCFの教育プログラムは成長を続けました。以下のトレーニング コースおよび試験は、年間を通じて大きな関心を集めました。

- [Kubernetes Massively Open Online Course \(MOOC\)](#)
登録数 429,000
(2024年比7%増).
- [Prometheus Certified Associate \(PCA\)](#)
登録数 4,400
(2024年比44%増).
- [Kyverno Certified Associate \(KCA\)](#)
登録数 790
(2025年11月開始).
- [Certified Kubernetes Administrator \(CKA\) exam](#)
登録数 291,000
(2024年比16%増).
- [Istio Certified Associate \(ICA\)](#)
登録数 3,100
(2024年比94%増).
- [Kubernetes and Cloud Native Training Partner \(KCNTP\) program](#)
 - 2025 – 新たに3つのKCNTPが追加され、年末時点で54のKTP
- [Certified Kubernetes Application Developer \(CKAD\)](#)
登録数 131,000
(2024年比18%増).
- [OpenTelemetry Certified Associate \(OTCA\)](#)
登録数 1,420
(2024年11月開始).
- [Kubernetes Certified Service Provider \(KCSP\) program](#)
 - 2025 – 新たに25のKCSPが追加され、年末時点で230のKCSP
- [Certified Kubernetes Security Specialist \(CKS\)](#)
登録数 75,000
(2024年比21%増).
- [Certified Backstage Associate \(CBA\)](#)
登録数 895 (2024年11月開始).
- [Kubernetes and Cloud Native Associate \(KCNA\)](#)
登録数 31,000
(2024年比72%増).
- [Cloud Native Platform Engineering Associate \(CNPA\)](#)
登録数 720 (2025年4月開始).
- [Kubernetes and Cloud Native Security Associate \(KCSA\)](#)
登録数 10,000
(2024年比90%増).
- [Certified Cloud Native Platform Engineer \(CNPE\)](#)
登録数 170 (2025年11月開始).

KUBESTRONAUT PROGRAM



2024年、CNCFはKubernetesおよびオープンソースのクラウド ネイティブ技術の成長を促進するため、[Kubestronaut](#)プログラムを立ち上げました。このプログラムは、クラウド ネイティブの専門家がその道を歩む上で支援するため、トレーニング、学習リソース、ネットワーキングの機会、専門能力開発を提供しています。開始以来、Kubestronautコミュニティは100カ国以上で3,000名以上のメンバーに成長し、それぞれがKubernetesとクラウド ネイティブ技術に関する深い専門知識を実証しています。

GOLDEN KUBESTRONAUT PROGRAM



Kubestronautプログラムの成功を基盤として、CNCFは4月のKubeCon + CloudNativeCon Europe 2025でGolden Kubestronautプログラムを導入しました。この権威あるプログラムは、Kubernetes、クラウド ネイティブ技術、Linux管理の全領域で最高レベルの専門知識を達成した専門家を表彰するものです。Golden Kubestronautの称号を獲得するには、CNCFの全15認定に加え、[Linux Foundation Certified System Administrator](#)(LFCS)認定も取得し、クラウド ネイティブの学習に対する卓越した献身を示す必要があります。

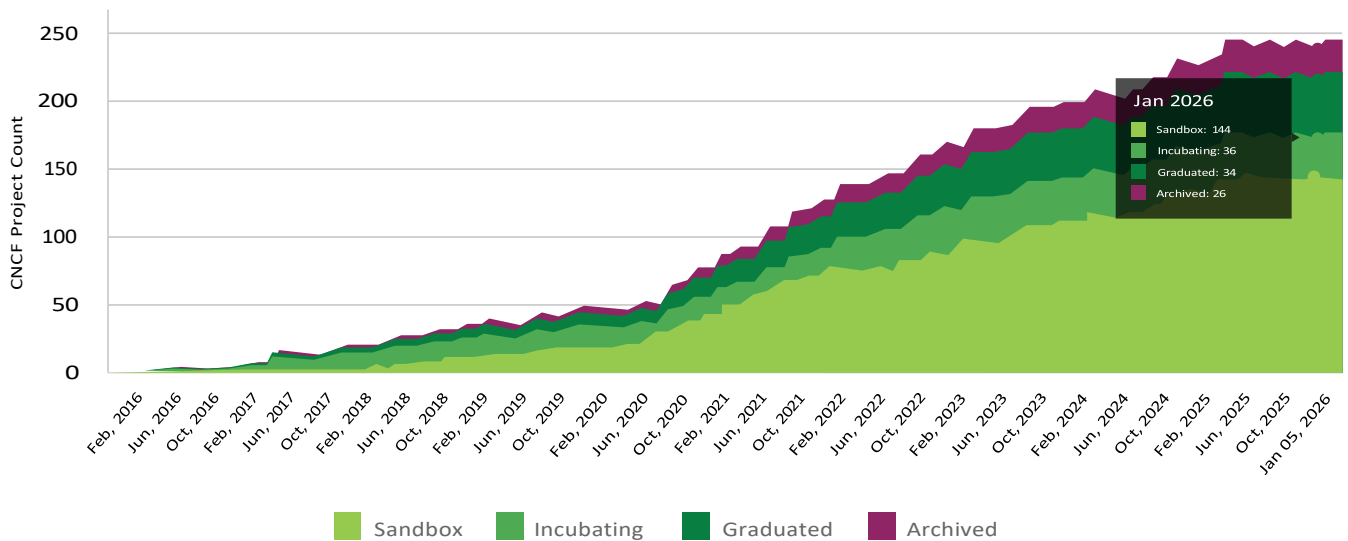
開始以来、Golden Kubestronautコミュニティは55カ国で200名以上のメンバーに成長し、堅牢な認定エコシステムの構築と広範なクラウド ネイティブ コミュニティの発展に対するCNCFの取り組みを裏付けています。CNCFの全認定の取得を専門家に奨励することで、これらのイニシアティブは認定取得者の裾野を広げ、CNCFのトレーニングやイベントへの参加を促進し、クラウド ネイティブ教育における主導的な存在としてのCNCFの地位を確固たるものにしていきます。

PROJECT UPDATES AND SATISFACTION



2025年を通じて、CNCFはクラウド ネイティブの普及というコミットメントを示し、[Graduated](#)プロジェクト34件、[Incubating](#)プロジェクト36件、[Sandbox](#)プロジェクト144件、[Archived](#)プロジェクト26件をホスティングしました。

PROJECT COUNT OVER TIME



*The CNCF Project Count in 2024: 30 graduated, 34 incubating, 129 sandbox

NEW PROJECTS

2025年、[Technical Oversight Committee](#) (TOC) は30件の新規プロジェクトを承認しました。

1

INCUBATING

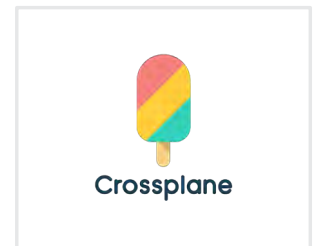
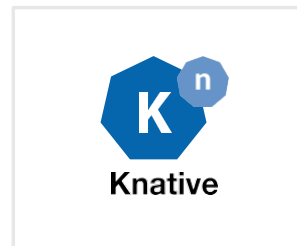
29

SANDBOX

PROJECT MOVES

プロジェクトは、エンド ユーザーとベンダーによる採用の達成、健全なコード コミットおよびコードベース変更の頻度の確立、複数の組織からのコミッターの獲得を [TOC](#) に示すことで、成熟度レベルを上げていきます。2025 年には、4 プロジェクトが Graduated に、5 プロジェクトが Incubating に移行し、13 プロジェクトが Archived となりました。

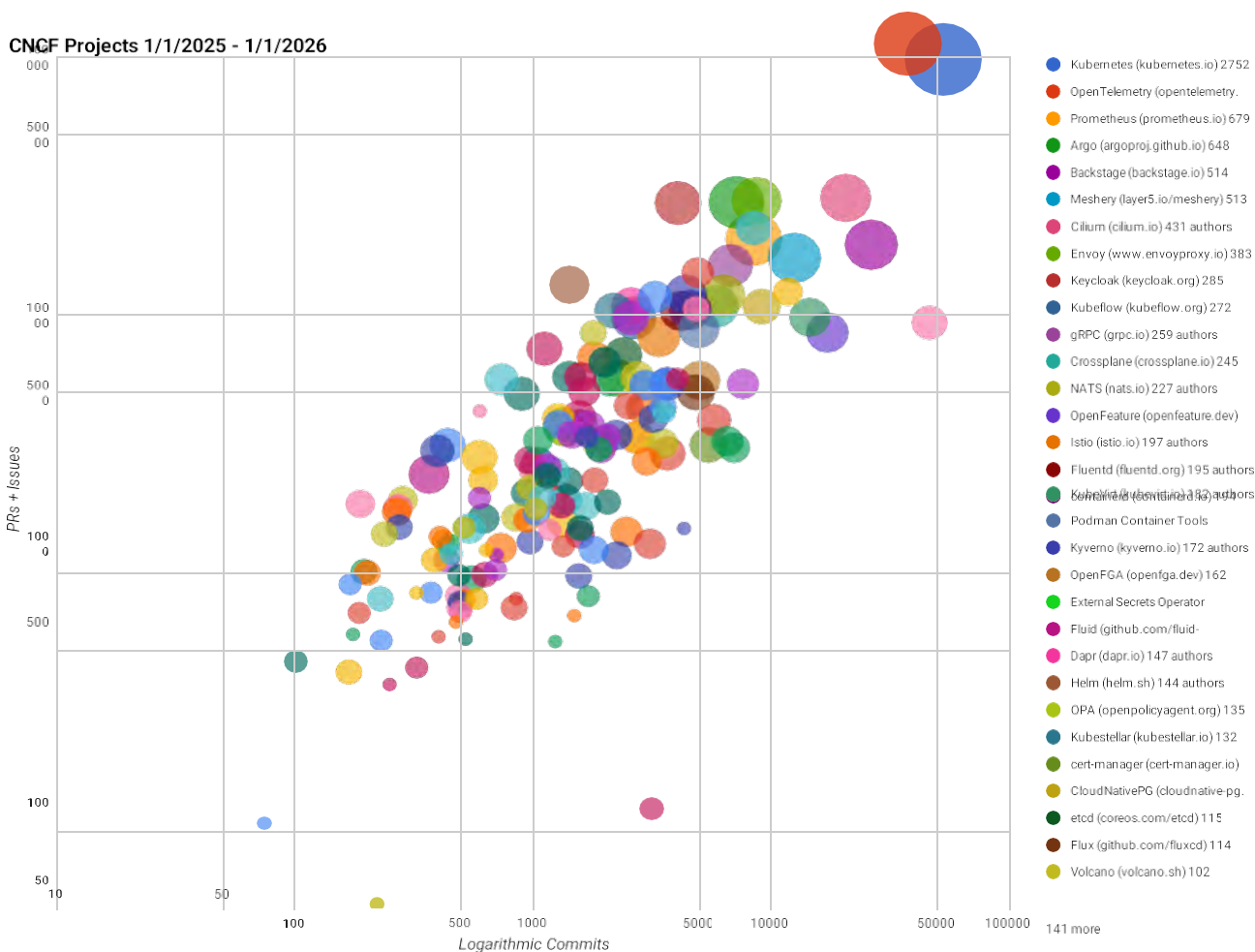
GRADUATIONS



CNCF PROJECT VELOCITY

CNCFの歩みから10年、変わらないことが一つあります。それは、私たちがどこに向かっているかを理解するために、依然としてオープンソースへの貢献、実際のデプロイ、コミュニティのエネルギーといった実際のシグナルに頼っているということです。クラウド ネイティブは今や目に見えないインフラとなり、私たちの日常生活を静かに支えています。そして、プロジェクト活動のペースを観察することで、チームがどのように未来を構築しているかを最前列で見ることができます。

コミット頻度、コントリビューターの増加、コミュニティの拡大、デプロイのパターンといったシグナルを掘り下げ、モメンタムがどこで生まれているか、そしてなぜそれが重要なかを把握しています。これらのシグナルは、実際に支持を得ている技術やアプローチを特定するための透明性のある方法を提供してくれます。単に人気があるものだけでなく、持続可能なもの、現実の課題を解決しているもの、そしてクラウド ネイティブ インフラの次のフェーズを形作る可能性が高いものを見極めることが重要です。



注: バブルチャートを使用して、コミット数、作者数、コメント/プル リクエスト数の3軸のデータを表示し、対数-対数チャート上にプロットすることで大きなスケールにわたるデータを示しています。

- バブルの面積は作者数に比例
- Y軸はプル リクエストとIssueの合計数
- X軸はコミット数

PROJECT VELOCITY KEY TAKEAWAYS

チャートから読み取れるポイント:

- **Kubernetes** は最大のコントリビューター基盤でエコシステムをリードし続けています。この持続的な勢いは、企業全体にわたるモダン インフラの基盤としての役割を強固にしています。Kubernetesは、AIの背後にある重要なオペレーティング システムへと進化しながら、その成功をさらに積み重ねています。
- **Backstage** は2024年以降、コントリビューション数が2倍以上に増加しました。開発者体験に焦点を当てたことで、現在ではオープンソースIDP(Internal Developer Platform)のリーダー的存在となり、プラットフォーム エンジニアリングの台頭において基盤的な役割を果たしています。より多くの組織が開発者の生産性と一貫性を加速するために社内プラットフォームを優先するようになる中、Backstageはスケーラブルな整備された開発パスを構築するための定番ソリューションとなりつつあります。
- **OpenTelemetry** は大きく勢いを増しており、コミット数が39%増加し、コントリビューター基盤はわずか1年で1,301人から1,756人に成長しました。これは35%の増加にあたります。現在CNCF第2位のプロジェクトとなり、リアルタイム オブザーバビリティがチームのシステム構築、運用、スケーリングに不可欠なものになりつつあることは明らかです。
- **Kubeflow** はコントリビューター活動が85%増加し、CNCFのトップ30プロジェクトに躍進しました。これは今後の方向性を示すシグナルです。より多くの組織がAIのユースケースを模索する中、クラウド ネイティブ ツール、そしてCNCFエコシステムが、そのインフラをスケーラブルかつオープンにする上でますます中心的な役割を果たしていることが見えてきています。
- **Crossplane** もコントリビューターが20%増加し、勢いが高まっています。これは、特に組織がマルチクラウドの複雑さに対処する中で、オープンで拡張可能なコントロール プレーンへのニーズが高まっていることを物語っています。
- **GitOps** はクラウド ネイティブ運用の中心であり続けており、ArgoやFluxといったツールは強力なコミュニティの関与を維持しています。これは、宣言的ワークフローが定着したことを示しています。

[現在](#)および[過去](#)のレポートはすべてGitHubで公開されています。



– Chris Aniszczyk, CTO, CNCF

SECURITY

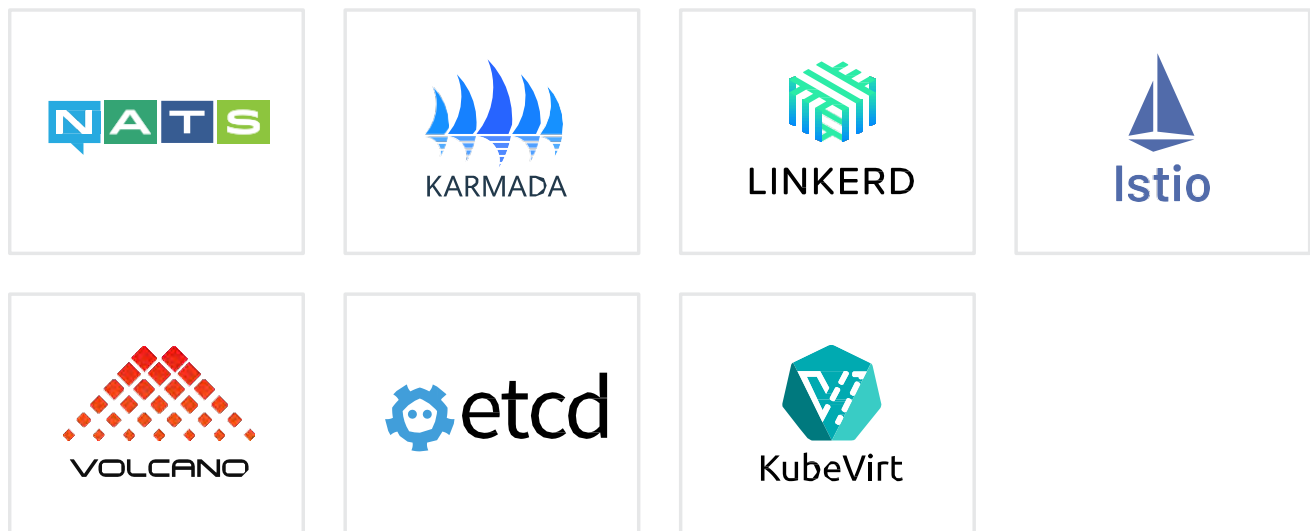
セキュリティは、クラウド ネイティブ エコシステム全体で引き続き主要な関心事です。クラウド ネイティブ技術が世界のデジタル インフラのより大きな部分を支える基盤となるにつれて、CNCFプロジェクトの健全性は技術的な必須事項であると同時に社会的責任でもあります。2025年、CNCFはプロジェクトとコミュニティの安全を確保するため、セキュリティ監査、堅牢な脅威モデリング、革新的なテスト手法を優先的に取り組みました。

オープンソースのサプライチェーン攻撃は頻度と巧妙さの両面で増加しており、XCの問題のような注目度の高い脆弱性が継続的な警戒の必要性を浮き彫りにしています。CNCFのプロジェクトセキュリティへの取り組みは、単なる問題のパッチ適用にとどまりません。それは、信頼を構築し維持するというコミットメントです。過去数年間で、CNCFはセキュリティ監査とツールに300万ドル以上を投資し、Open Source Technology Improvement Fund(OSTIF)などの組織と提携して、深く実用的なセキュリティに関する知見を提供してきました。

CNCFのセキュリティ監査への取り組みは大きな成果を上げ、エンドユーザーとコントリビューターの信頼を醸成しました。これらの監査は重大な脆弱性の特定と解決に成功し、重要なプロジェクトのセキュリティ態勢を大幅に強化しました。2025年の影響は極めて大きく、CNCFがスポンサーした監査により18のプロジェクトで155件以上の重要なセキュリティ問題が発見・解決されました。さらに、この取り組みを通じて280件以上の堅牢化に関する推奨事項が提供され、メンテナーが3,800時間以上の専門家によるセキュリティコラボレーションに参加しました。

CNCFのセキュリティへの取り組みは、深く協力的かつ透明性の高いものであり、持続可能で信頼性の高いソフトウェアに対するコミュニティ全体のコミットメントを反映しています。

FUNDED SECURITY AND FUZZING AUDITS



PHIPPY AND FRIENDS

一つの小さなPHPアプリから始まったPhippyは、コンテナ化からオートメーションまで、何千人もの人々がクラウドネイティブコンピューティングを理解するための最初の一步を踏み出す手助けをしてきました。現在、Phippy and Friendsのミッションは、クラウドネイティブコンピューティングをわかりやすく解説し、複雑な概念を魅力的で親しみやすく、理解しやすい方法で説明することです。

2025年には4つのプロジェクトがキャラクターを寄贈しました。詳細はこちらをご覧ください。 [Phippy and Friends](#) のリニューアルもぜひチェックしてください！



ARGI



BITZY



INDIGO



KUACK

COMMUNITY ENGAGEMENT

KCD mention, X: 「#kubcon のエネルギーは信じられないほどです！ @SaiyamPathak, @satyampsoni, @abhinavd26 が会場の熱気を存分に楽しみ、素晴らしいセッションから学びながら、すでに特別なイベント“KCD Delhi!”に向けて準備を進めています」

KUBERNETES COMMUNITY DAYS (KCD)

KCDは、Kubernetesおよびクラウド ネイティブ技術の世界的な採用と改善を促進することを目的として、採用者と技術者が学び、協力し、ネットワーキングするためのグローバルなコミュニティ主催イベントです。



KCDs 2025の概要

- KCD開催数: 29件(2024年比17%減)
- 参加者数: 10,500名以上(2024年比3.5%増)
- 開催国数: 22カ国
- 発表言語: 英語、中国語、フランス語、スペイン語

CNCFはまた、プログラムの成功を確実にするため、KCDコミュニティとオーガナイザーを支援する追加措置を実施しました。

- 各KCDイベント固有のデザインの基盤として、[KCDロゴ](#)を標準化
- 各KCDに配布用のトレーニング バウチャー10枚を提供 (100%割引)
- 各KCDにスピーカーやボランティアへのCredlyバッジ授与の選択肢を提供

CLOUD NATIVE COMMUNITY GROUPS (CNCGS)

CNCGS (community.cncf.io) は、KCDと同様に採用者と技術者が集まるグローバルなクラウド ネイティブ チャプターです。これらのグループは、対面、バーチャル、またはハイブリッドのミートアップ イベントの規模で、Kubernetesおよびクラウド ネイティブ技術に関する学習、協力、ネットワーキングを促進しています。

CNCGs 2025 の概要

地域コミュニティグループ

- アクティブなチャプター数: 232(2024年比6.5%増)
- 開催ミートアップ数: 849回(2024年比6%減)
 - そのうち215回がバーチャル開催

オンラインイニシアティブ

- チャプター数: 10
 - オンラインミートアップ数: 91回(2024年比46.5%減)
- 注記: これらの数値にはオンライン専用チャプターは含まれていません。

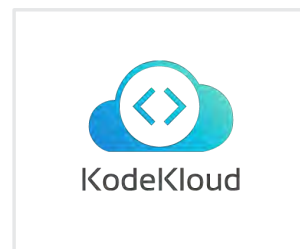
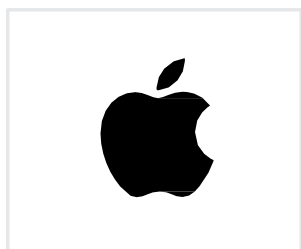
INCLUSION AND ACCESSIBILITY

CNCFは、勢いを持続させ、成長を促進し、採用を加速するコミュニティ主導のイニシアティブへの投資を通じて、#TeamCloudNativeへの取り組みを引き続き強化・拡大しました。同時に、財団はインクルージョンとアクセシビリティに深く注力し続け、エコシステムが誰もが活躍できる温かく支え合う環境であることを確保しました。

CNCFは、性別、性自認、性的指向、障害、人種、民族、年齢、宗教、経済的地位にかかわらず、すべての参加者が価値ある存在として受け入れられていると感じられるよう努めながら、この卓越したクラウド ネイティブ コミュニティの成長を育むことに尽力しています。これまでに、Dan Kohn Scholarship Fundを通じて7,950件の奨学金が授与されました。

CNCFは2025年のイベントに参加する412名のスピーカーおよび奨学金受給者に渡航費を提供しました。この経済的支援は、社会的に疎外されたコミュニティや伝統的に過小評価されてきたコミュニティの個人にとって極めて重要であり、参加への経済的障壁を克服する助けとなりました。また、必要とする個人に538件の無料登録パスを配布し、コミュニティ全体のアクセスをさらに拡大し、インクルーシビリティを強化しました。

奨学金は以下のスポンサーシップにより提供されました。



COMMUNITY HUB

Community Hubは、コミュニティ主導のプログラム、スキル構築ワークショップ、ネットワーキングの機会を通じて意義あるつながりを育む中央の集いの場として設計され、個人的および専門的な成長の両方を支援しました。

Community Hub では、Women、Deep Roots、LGBTQ+、Students など、さまざまなコミュニティの集まりが開催され、共有体験、ピア サポート、集合的な学びのための場が作られました。さらに、アドボカシー、アクセシビリティ、専門能力開発といった重要なトピックを取り上げるワークショップやセッションも実施されました。具体的には、Deaf and Hard of Hearing Advocacy Session、Sign Language Crash Course、Peer Group Mentoring、Bystander Intervention Workshop、Your Voice on Stage: Creating Proposals That Get

Noticed、Merge + Meet: Merge Forward Kickoff Meeting for underrepresented groups and allies、Agile for Every Brain (ニューロダイバージェント向けインタラクティブ ディスカッション)、Building Resilience Workshopが含まれます。

KubeCon + CloudNativeCon EuropeおよびNorth America全体で862名の参加者を集め、Community Hubは引き続き参加者体験の重要かつ意義ある一部であり続けました。このプログラムは、両イベントのHubスポンサーであるGoogle CloudとNorth America HubスポンサーであるZededaの支援により実現し、より広範なアクセス、つながり、学びを可能にしました。

COMMUNITY AWARDS



9年目を迎えた CNCF Community Award は、クラウド ネイティブの発展において期待を超える貢献をしたすべての CNCF プロジェクトおよび TAG の主要なコントリビューターを表彰するものです。受賞内容は以下のとおりです。

- **Top Committer Award:** 1つまたは複数のCNCFプロジェクトにおいて、卓越した技術スキルと顕著な技術的成果を持つ個人に贈られます。2025年の受賞者はJohn Howardです。
- **Chop Wood Carry Water Award:** 地道な作業に数えきれない時間を費やすコントリビューターを表彰する賞です。CNCFは2025年の卓越した貢献に対し、7名の素晴らしい取り組みを誇りを持って称えました。受賞者はMario Jason Braganza、Lubomir I. Ivanov、Daniel Hawton、Janet Kuo、Yuichi Nakamuraです。また、CNCFは最近逝去されたHan Kangに特別な追悼の意を表しました。Kubernetes SIG NodeおよびkubetletへのLong Time ContributorであったHan Kangの寛大さと技術的洞察はコミュニティに深い影響を与えました。その業績だけでなく、メンターシップと協力の精神でも記憶されています。
- **The TAGGIE:** CNCFのTechnical Advisory Groups (TAG)の推進に最も貢献した人物に贈られます。TAGは、クラウド ネイティブの普及というCNCFのミッションを支援するため、健全性を維持し品質を向上させながら、CNCF技術コミュニティおよびユーザー コミュニティによる貢献を拡大する役割を担っています。2025年のCommunity Award受賞者には、Dawn Foster、Marina Moore、Leo Pahlke、Mauricio

Salatinoが含まれます。

- **Top Documentarian:** CNCFおよびそのプロジェクトへのドキュメント貢献における卓越した成果を表彰する賞です。2025年の受賞者はAidan Delaney、Tiffany Hrabusa、Seokho Sonです。
- **Cloud Native Hero:** CNCFおよびUnified PatentsのCloud Native Heroes Challengeに参加し、オープンソース技術の防衛を推進する個人を表彰する賞です。この賞は、特許の脅威に対抗し、クラウドネイティブオープンソースの成功を理由に標的を増やしているパテント トロールによる迷惑訴訟の阻止に不可欠な「先行技術」を提出したクラウド ネイティブの開発者と技術者を称えるものです。2025年の受賞者はChris Buccella、Ketan Sachdeva、Ritu Tyagiです。
- **Outstanding Mentor:** メンターシップとコミュニティの成長への貢献を称える賞です。この初回の賞として、CNCFはLayer5の創設者であるLee Calcoteを表彰しました。Lee Calcoteは過去5年間にCNCFおよびLinux Foundationのプログラムを通じて60回以上メンターを務めています。

CNCFは10周年を迎えるにあたり、過去10年間にわたるKubernetesおよび財団コミュニティの形成と支援への計り知れない貢献を称え、Dawn ChenとKevin WangにLifetime Achievement Awardを贈呈するという格別な栄誉に恵まれました。

“CNCFで最大のプロジェクトはコミュニティです” - ATULPRIYA SHARMA, X

MENTORING

2025年、CNCFは[LFX Mentorshipプラットフォーム](#)や[Google Summer of Code\(GSoC\)](#)を含むさまざまなメンタリングおよびインターンシップの機会を通じて、約200名を誇りを持って支援しました。これらのプログラムは、すべての人が依存する将来の技術にインターンシップが影響を与えるための重要な触媒です。2020年以降、LFX Mentorshipプログラムを通じてCNCFに参加した25名のメンティーがCNCFプロジェクトのメンテナーとなっています。

CNCFは187名の学生をスポンサーし、Kubernetes、Istio、Prometheus、Envoy、Kyverno、Backstageを含む数十のCNCFプロジェクトでの作業を支援しました。

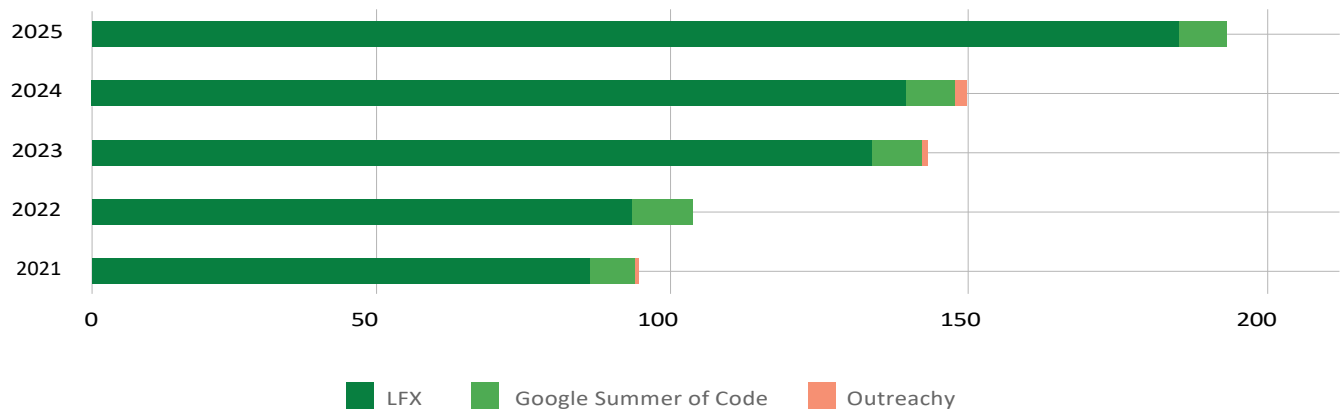
176

LFX MENTORSHIP

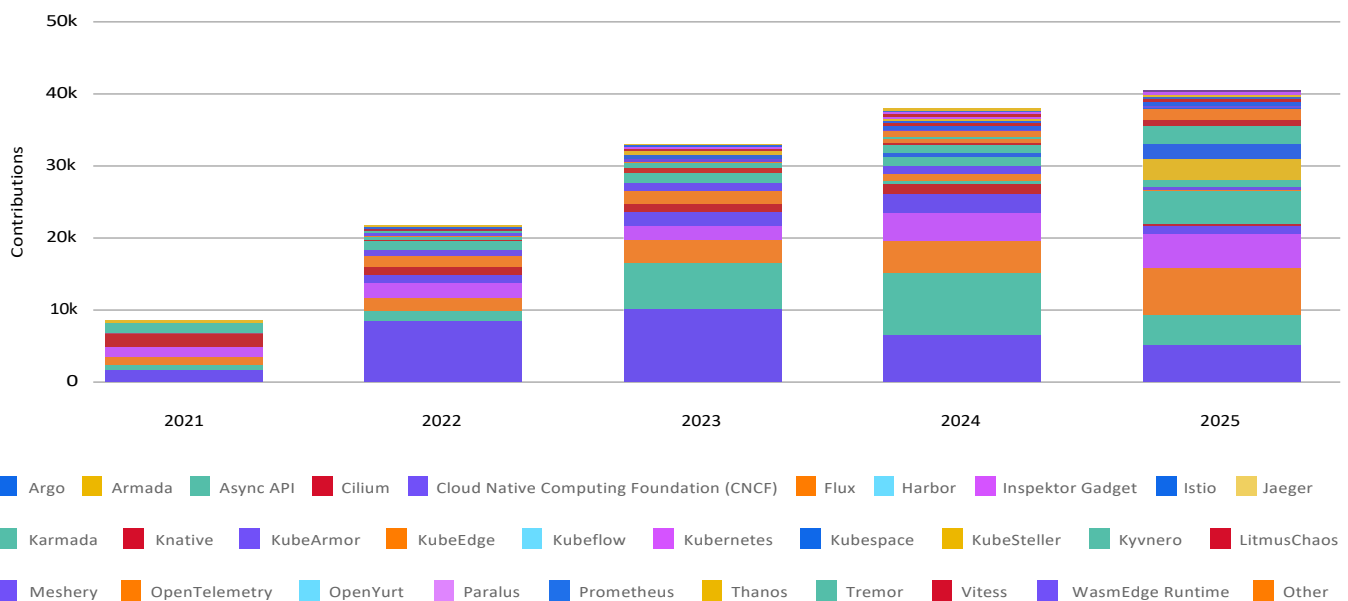
11

GSOC

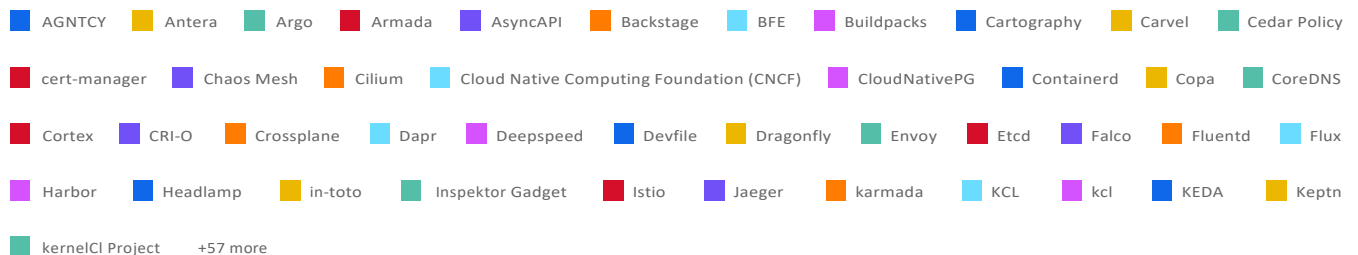
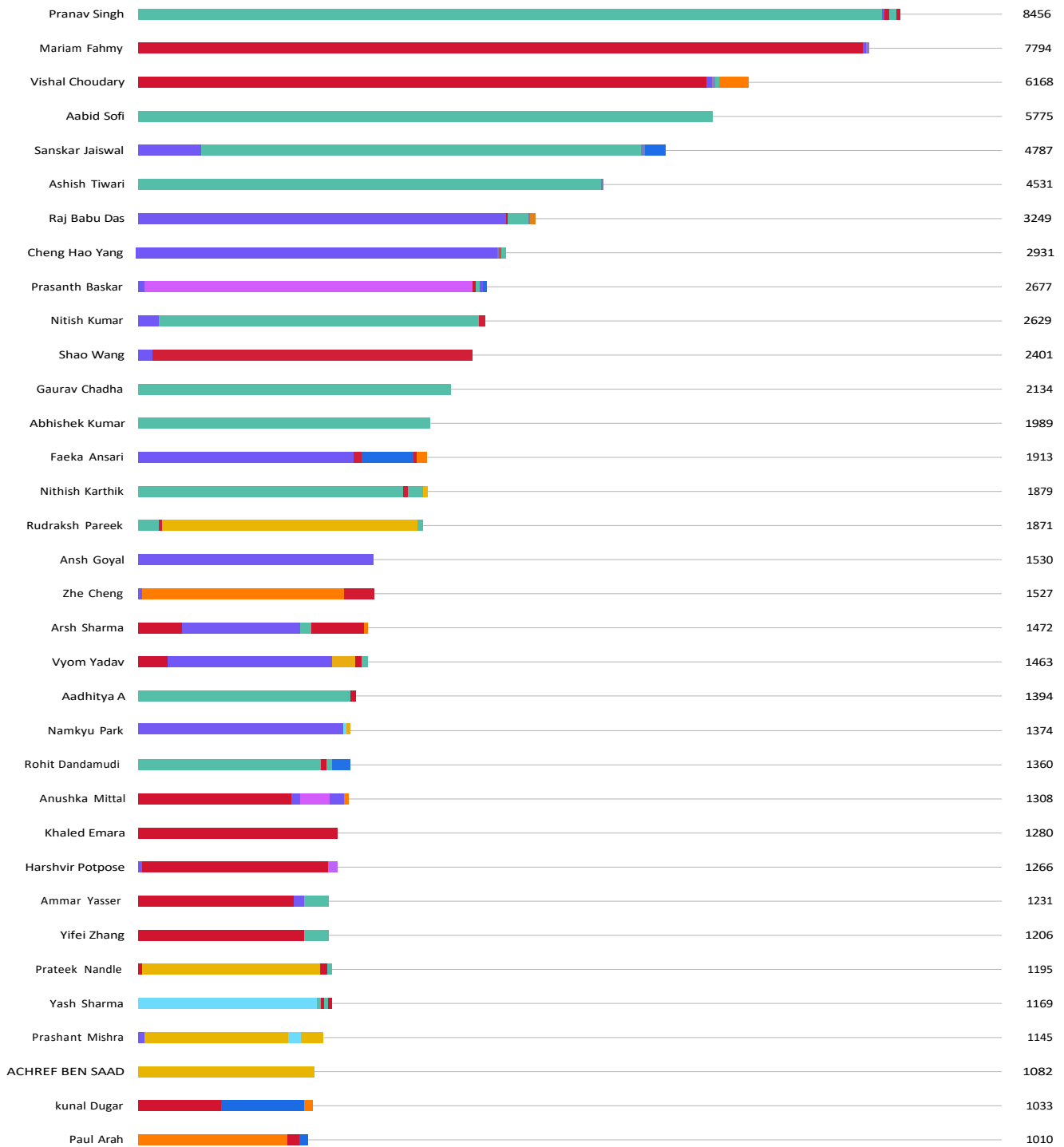
PROGRAM GROWTH



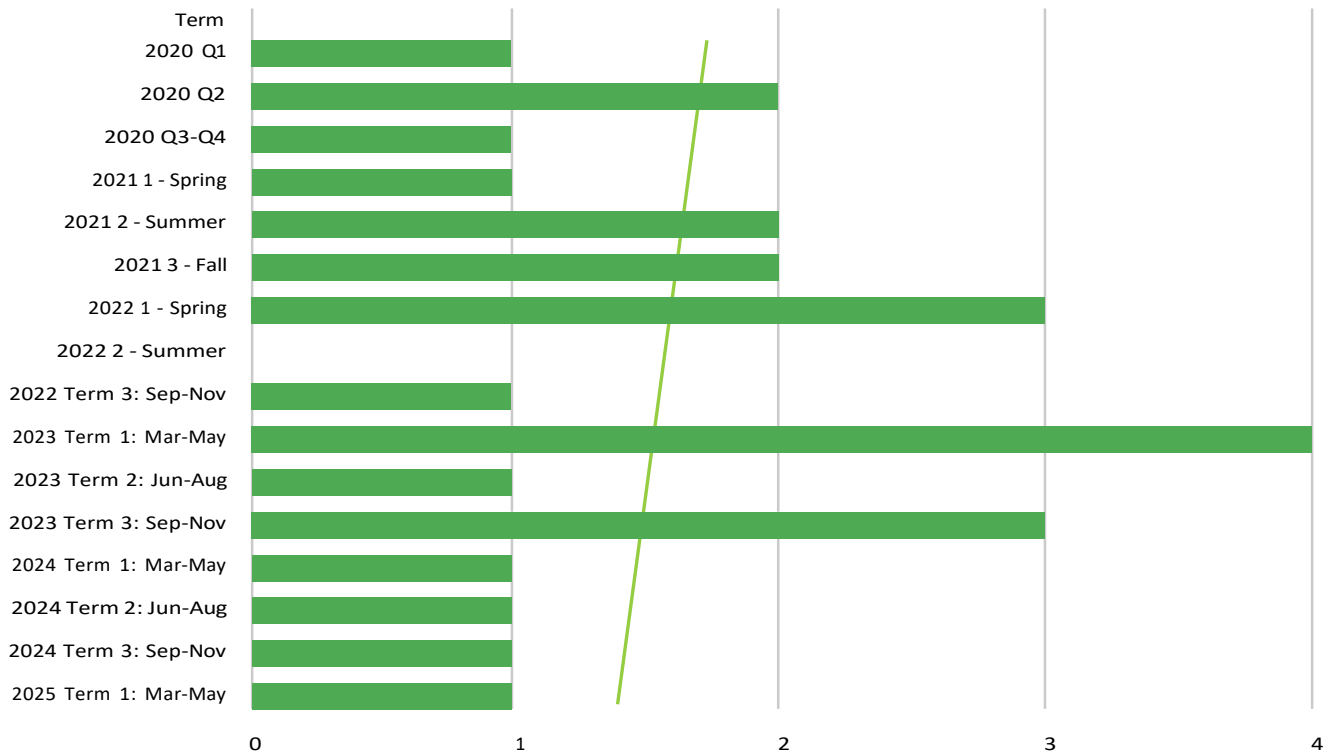
MENTEE CONTRIBUTIONS BY PROJECT



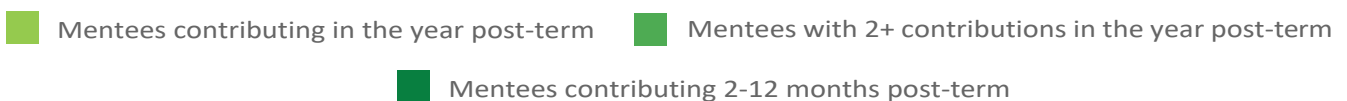
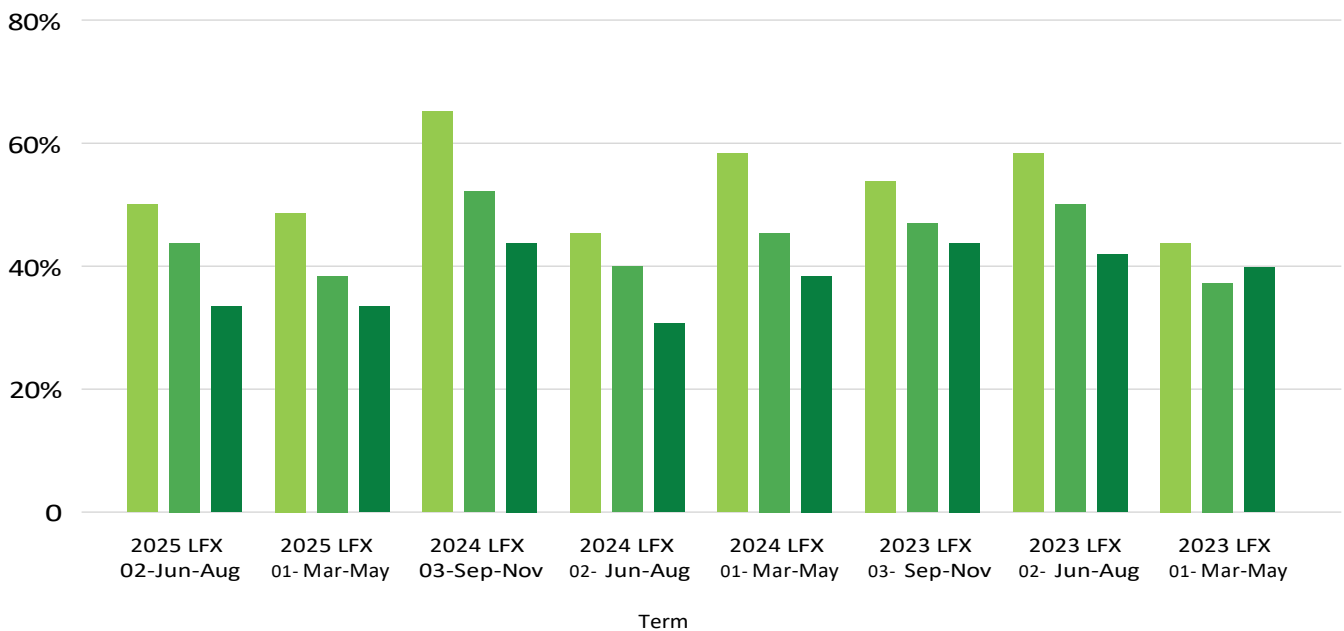
TOP CONTRIBUTING MENTEES



MENTEES > MAINTAINERS



% MENTEES CONTRIBUTING IN THE YEAR FOLLOWING THEIR TERM

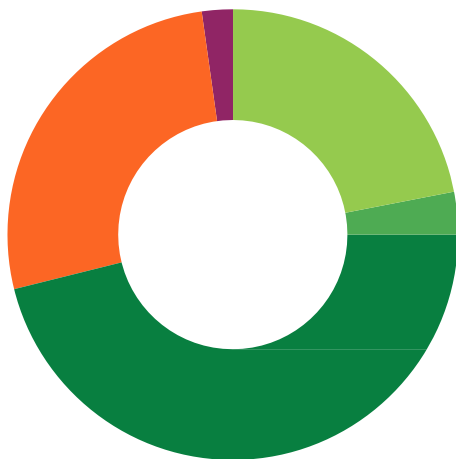


FUNDING

CNCFの収入は、メンバーシップ、イベント スポンサーシップ、登録料、教育の4つの主要な資金調達源から得られています。

CNCF、そのカンファレンス(KubeCon + CloudNativeConを含む)、そしてオープンソース全般の基本的な前提は、相互作用がポジティブサムであるということです。特定のプロジェクトに割り当てられる投資、関心、開発貢献に固定的な量はありません。同様に重要なのは、プロジェクトとコミュニティにとって中立的な抛り所が、このようなポジティブサムの考え方を育み、CNCFが成功するオープンソース プロジェクトの中核的要素であると信じる成長と多様性を推進するということです。

FUNDRAISING SOURCES



2025 Chart source: [CNCF Graphs](#)

22.0%

MEMBERSHIP

3.0%

TRAINING

46.2%

EVENT SPONSORSHIP

2.0%

OTHER REVENUE

26.8%

EVENT REGISTRATION

「素晴らしいKubeCon NAを終えて、アトランタから帰路についています!たくさんの素敵で支えてくれる人々に出会えたことがどれほど嬉しかったか、言葉では言い表せません」- ALEX ZENIA ON BLUESKY

2025年に共に達成したすべての素晴らしい成果を振り返っていただけたなら幸いです。
ご意見・ご感想は info@cncf.io までお寄せください。

2026年にお会いできることを楽しみにしています!お近くのコミュニティイベントについてはカレンダーをご確認ください。
また、3月にアムステルダムで開催される [KubeCon + CloudNativeCon Europe](#) への登録もお忘れなく。

-The CNCF Team

翻訳協力: 阿久津 恵太

